

さどごかんきしよ
佐渡御勘気鈔

九月十二日に御勘気ごかんきを蒙こうむて、今年十月十日佐渡国へまかり候也。

本より学文し候し事は仏教をきはめて仏になり、恩ある人をもたすけんと思ふ。仏になる道は、必ず身命しんみよをすつるほどの事ありてこそ仏にはなり候らめと、をしはからる。

既に経文のごとく、悪口罵詈あつくめり刀杖瓦礫とうじようがりやく数数見擯出さくさくけんひんすいと説れて、かゝるめに値候あいこそ

法華經をよむにて候らめと、いよいよ信心もおこり、後生もたのもしく候。死して候はば、必ず各各をもたすけたてまつるべし。

天竺に師子尊者と申せし人は檀弥羅王だんみらおうに頸くびをはねられ、提婆菩薩だいばぼさつは外道につきころさる。

漢土に竺道生じくどうしよと申せし人は蘇山そざんと申所へながさる。法道三蔵おもては面おもてにかなやき（火印）

をやかれて江南と申所へながされき。是皆法華經のとく（徳）仏法のゆへなり。

日蓮は日本国東夷東条とういつとうじようあわのくにかいへん安房国海辺せんだらの旃陀羅が子也。いたづらにくち（朽）ん身を、法

華経の御故に捨まいらせん事、あに石に金こがねをかふるにあらずや。各各なげかせ給べからず。

道善の御房にもかう申きかせまいらせ給べし。領家の尼御前へも御ふみと存ぞんじ候へども、先ますかゝる身のふみなれば、なつかしやと、おぼさざるらんと申ぬると、便宜あらば各各御物語申させ給候へ。

十月 日

日蓮 花押